

人さまの喜びのため、 そして社会のために。培った 技術を継ぎ、努力を重ねる。

上尾教会 原田昌彦さん

埼玉県上尾市に、穀物等の食品の選別機械を設計・製造する会社「原田産業」がある。原田さんは大学卒業後に父親が創業したこの会社に入社。間もなく敏腕営業マンとして活躍するものの、強引な営業スタイルに設計や製造部門との軋轢を生んでしまう。自分の仕事ぶりを誇り、従業員への不満を抱くようになった時、お世話になっている方から「人は支えあって生きている」「苦しみは自分の中に原因がある」ことを諭される。傲慢だった自分に気づき、思いと行動を改める。その後、社長に就任した折りに、自戒の念を込めて「原田産業の経営者は社員の幸福を考える」と社是に記した。同時に、社会に貢献する企業であることも明示し、環境システム部を新設。産業廃棄物を選別する機械を開発するなど社会の環境浄化に意欲的に取り組む。昨年、東日本大震災の被災地に選別機械を送り、瓦礫処理のスピードアップに大きく貢献。社長に就任して21年、「従業員に仕事を通して喜びを感じてもらおうこと」「取引先の要求に答えていくこと」の実現に向けて努力を続けている。



「おかげさま」を 数えてみよう

仏教で「色^{しき}即^す是^ぜ空^{くう}」と説くように、現象そのものはプラスでもマイナスでもない、ゼロであり、「空」です。つらい、悲しい、苦しいと思う心を一度まっさらにして、目の前に起きた現象を見直すと、たとえば、苦が喜びや生きがいにつながり、悲しみが心の成長をうながし、怨^{うらみ}みにさえ「ありがとう」といえるような転換もできるのです。

年の瀬が近づき、一年をふり返る機会も多いと思いますが、固定的になりがちなものの見方、受けとり方をいわばニュートラルにして、「おかげさま」という感謝の種をたくさん見つけ、新たな年を迎えたいものです。

まずは身近な「おかげさま」を思い起こすことから始めてみましょう。孫の成長も、おかげさま。そう思えることが、またおかげさま。日常のそうしたささやかな喜びや幸せに、人生のすべてがあらともいえるのです。

立正佼成会